



お宝ゲットゲーム(第二回法人大運動会)

## 限界集落

社会福祉法人春風会 理事 清水 忠

皆さんは限界集落という概念をご存知でしょうか。

社会学者である大野晃氏が、高知大学人文学部教授時代の平成3年に最初に提唱した概念とされています。

過疎地などで、人口の50%以上が65歳以上の高齢者になり、冠婚葬祭などを含む社会的共同生活や集落の維持が困難になりつつある集落を指すわけですが、私が意識したのは10年以上前の国勢調査の数値を報道する新聞記事でした。記憶が定かではないのですが、沼津市にも限界集落が存在するというものでした。それも五、六ヶ所あるとのことでした。私にしてみればショックキングな記事で驚かされました。

調べてみると、国勢調査の調査区単位を一集落とし65歳以上の高齢者がその人口の50%を超えれば限界集落としたもので、市の中心街にも存在した記憶があります。調査区の一単位は決して大きくはなく、集落と直結させるのは無理があるのではないかと思いましたが、大野氏は、65歳以上の高齢者が、地方自治体の総人口の過半数を占める状態を限界自治体と名付け、

この定義を集落単位に細分化したものを限界集落としています。その先は、危機的集落、超限界集落、廃村集落、消滅集落となるわけです。近年、国では二つの調査結果を発表しています。

農林水産省では、平成18年に無住化危惧集落としてその数を全国で1403集落と推定していますし、国土交通省では平成18年の調査で、高齢者(65歳以上)が半数以上を占める集落が7878集落(全体の12.7%)。機能維持が困難となつている集落が2917集落(全体の4.7%)。10年以内に消滅の可能性のある集落が423集落、いずれ消滅の可能性のある集落が2220集落、併せて2643集落(全体の4.2%)と集計しています。この調査にいう集落とは、それぞれ基本単位が異なるものであることに留意しなければいけません。最近では都市部でも限界集落の存在が指摘されている時代で、限界団地や限界マンション、限界都市などいわれているそうです。なんとも先行きが厳しいことには間違いないようです。我々は、どうやって対処すべきか真剣に考える必要があります。



# 合同職員研究発表会

平成三十一年四月二十四日  
(水)沼津プラサヴェルデにおいて第二十二回法人合同職員研究発表会が開催されました。

研究発表会は全施設で研究成果を共有し、施設サービス向上に役立てる事を目的に、毎年開催し今年で二十二回を迎えました。はじめに石川理事長より「研究発表は福祉サービスの向上を図るための重要な事業であると考えています。福祉業界のみならず人材確保が困難な時代において、様々な人にとって働きやすい環境を作ることが大切と考えています。」と挨拶されました。特別表彰では他の模範となる職員としてあしたかホーム羽切茜介護士、伊豆中央ケアセンター山本久恵施設課長兼看護主任、ぬくもりの里飯田洋美主任管理栄養士、みはるの丘浮島老名貴子介護主任が表彰され、永年勤続表彰は五十九名が表彰されました。

続いて各施設職員による合計九

題の研究成果が発表されました。今回、優秀賞に選ばれた三題を紹介させていただきます。

**「個別活動の提供方法について考える」**  
「はらデイのワンステップ活動」「わっちのスタンプ貯まった?」「はらデイサービスセンター」

はらデイサービスでは、午前中に体操等の集団活動、午後には個別活動を利用者に提供しています。が、個別活動のマンネリ化に気づき、ワンステップ活動という取り組みを通じた活動提供方法の見直しを行いました。

ワンステップ活動とは、利用者個別に小さな目標を立てて活動内容を選択し、目標達成を繰り返していくもので、はらデイで考案したものです。スタンプカードを使い、活動実績をポイント化し、ポイントが貯まった際には「自分へのごほうび」という形で還元していきます。

利用者アンケート結果では、90%以上の方が続けたいとお答

えいただき、達成可能な目標を持つて活動に向き合うことで、生活意欲向上や機能維持・向上にも繋がっています。

楽しみややりがいを感じて頂く仕掛け、ケアプランとの更なる連動等課題はありますが、更なるワンステップを目指して、今後も職員一同精進していきたいと思います。



ワンステップ活動の様子

**「食べたらみんな 栄養になあれ」**  
みはるの丘浮島栄養

みはるの丘浮島では、嚥下機能の低下した利用者への水分補給は、寒天で固めたゼリーを提供してきました。栄養士としては、ダイエツト食品でもある寒天より、コーラゲンを豊富に含んだゼラチンを使用したいと提案してきましたが、

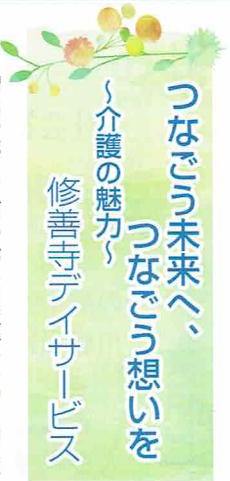
物性の違いが誤嚥の誘因と考えられるため断念してきた経緯があります。しかし「リセットゲル」と呼ばれる新たなジュレを知り、利用者の栄養状態、寒天とジュレの物性の違いを科学的根拠に基づいて分析し、コスト面の比較も加え、介護現場と協働で水分ゼリーの切り替えを行いました。既存の介護内容を見直すことは容易ではありません。新たな試みをする時には問題点も挙がります。それが利用者本位の問題点なのか、職員サイドの都合なのかを考えさせられる研究でもありました。

ジュレに変更してから、食事摂取量が増え、下剤の使用量が減っています。今後、栄養状態の改善に期待して経過観察を続けます。誤嚥性肺炎の予防を念頭に、食べたものが効率よく体内に取り込まれ「みんな栄養になあれ」となる安全な食事の探求をこれからも続けていきます。





# 特別表彰・永年勤続表彰



「現状、祖父母と生活してない生徒たちが過半数であり、机上ではなかなか介護の理解が難しい」とのこと、伊豆総合高校の選択科目・生活と福祉コースの授業を手伝って欲しいと依頼を受けました。実習やふれあいを通じこの仕

## 特別表彰者

春風会では多年に亘り法人の経営施設・事業等の発展に貢献した職員に対し特別表彰を行っています。

- 羽切 茜 (あしたかホーム介護士)
- 山本久恵(伊豆中央ケアセンター施設課長兼看護主任)
- 飯田洋美 (ぬくもりの里主任管理栄養士)
- 海老名貴子(みはらの丘浮島介護主任)



特別表彰者の4名と理事長

## 永年勤続表彰者

事への興味をより大きく持つてもらうことは出来ないか考え今回の研究としました。月一回の実習を行い利用者と触れ合う事やレクレーションをする機会を設け、一月には高校にお年寄りを招待する逆「デイサービス」を企画・実践を行いました。生徒たちより、『家族の中のお年寄りとしか話していなかったがデイサービスのにお年寄りと関わる事・話す

### 二十五年勤続表彰者

- 小野博信 (法人本部)
- 高橋順子 (フレッグあしたか)
- 堀内和憲 (伊豆中央ケアセンター)
- 鈴木昭子 (伊豆中央ケアセンター)
- 豊島つぐみ (伊豆中央ケアセンター)
- 飯田洋美 (ぬくもりの里)
- 高野明美 (ぬくもりの里)

### 二十年勤続表彰者

- 渋谷智子 (はしほ)
- 濱野絵理子 (伊豆中央ケアセンター)
- 小川君枝 (ふれあいデイ)
- 原久美子 (ぬくもりの里)
- 内山洋美 (ぬくもりの里)
- 小坂浩子 (フレッグあおひこ)
- 梅原里江子 (フレッグあおひこ)

## 十五年勤続表彰者

事が、お互いの楽しさになると感じました。『喜んでもらうことは大変なことで介護士の仕事は大変だと感じました。』結果、大半の生徒が授業の終了時に介護の仕事に興味を持ってたと感じ、将来の夢に医療や福祉系に進みたいと話をしていました。今後もこの活動を続け将来このコースを受講した生徒が春風会に就職してくれたらと思います。

- 鈴木友美 (あしたかホーム)
- 三井 薫 (あしたか訪問)
- 小山久子 (以上伊豆中央ケアセンター)
- 田村美和 (以上伊豆中央ケアセンター)
- 鈴木由祐 (以上ぬくもりの里)
- 小池久美子 (ぬくもりの里)
- 杉山 清 (ぬくもりの里)
- 加藤富由子 (以上フレッグあおひこ)
- 永田信人 (以上フレッグあおひこ)
- 宮本美智子 (以上フレッグあおひこ)
- 海老名貴子 (以上フレッグあおひこ)
- 佐藤直子 (以上ぬくもりの里)
- 浅井友里奈 (以上みはらの丘短期)
- 杉山真子 (以上みはらの丘短期)
- 山田洋子 (以上みはらの丘短期)
- 堀内志穂 (以上みはらの丘短期)
- 柳津なみ (みはらの丘)
- 佐野小夜子 (みはらの丘)
- 長岡美和子 (みはらの丘)
- 岩本竜太 (みはらの丘)
- 中村隆吾 (以上沼津市立高尾園)

## 十年勤続表彰者

- 鈴木唯花 (あしたかホーム)
- 鈴木宏紀 (渡邊 進)
- 菊池富美代 (片浜(糸川)地域包括)
- 荻 将宗 (木村桃子)
- 小林真里奈 (以上フレッグあしたか)
- 柁 祐介 (以上伊豆中央ケアセンター)
- 佐野栄子 (修善寺地域包括)
- 今井静香 (原美千代)
- 青山麻衣 (以上北狩野ケアセンター)
- 森下浩美 (天城デイ)
- 石川香緒里 (天城放課後児童クラブ)
- 東恵美子 (以上ぬくもりの里)
- 大島百恵 (後藤光子)
- 北澤幸子 (以上フレッグあおひこ)
- 庄司喜久美 (もくせい苑)
- 西村友紀 (鈴木治明)
- 石垣須美江 (以上みはらの丘浮島)
- (沼津市立高尾園)



伊豆総合高校の実習風景



平成31年度  
 社会福祉法人春風会 新規採用職員辞令交付式  
 ～新たな仲間たちを迎えて～

春風会では、平成31年4月1日付け新規採用職員の辞令交付式を行いました。今年度の同日付け新規採用職員は学卒者13名、中途採用者2名の計15名です。

新人の皆さんが少しでも早く社会人生活に慣れ、一人ひとりが希望された職場で活躍されることを、私たち春風会職員は応援し、バックアップしてまいります。



参加したご家族からの感想等

職場見学の話をしていただいて妻から行かないかと誘われ、男親が行ってどうかと気恥ずかしさを抱きながらも参加をさせていただいたが、結果的に来て良かった。今、私の職場も人材不足に直面しているが、定着させるために職場に誇りを持たせなければいけない、紹介できるような所であればと思うが、その自信の表れが職場を見てくださと言う事に繋がっているのではと思った。こういう機会は今後是非続けて欲しいと思います。

介護施設を見る機会が無くどんな所だろうと思って来たが、色々なレクや体操なども行って新しい発見も多く、外から見るのと介護の実践の場はすごく差があるということを知る機会になった。うちの子はこういう所で頑張っているんだなあ～と思い、とても感謝しています。ありがとうございました。

四月一日より新規採用職員が各職場に配属されました。みなさん新社会人として夢と希望を膨らませ、それぞれの職場にて先輩職員のアドバイスを受けながら一日でも早く立ち上げできるように頑張っています。

春風会では、今年度初めての取り組みとして、新規採用職員のご家族やご父母を対象とした施設見

新規採用  
職員の

父母による  
施設見学会の開催

学会を実施しました。普段なかなか見る事の出来ない息子さんや娘さんの働く職場を見学すると共に、法人の各種福利厚生制度や事業展開などの説明を受け、施設の昼食の喫食体験もされました。





# 「働きやすい介護事業所」の認証を受けました

## 法人内6施設

静岡県では、介護職員の定着と新規就業を促進するため、「人材育成の推進」、「サービスの質の向上」、「労働環境の改善（ワークライフバランス）」に取り組み県内介護事業所を「働きやすい介護事業所」として認証する「静岡県働きやすい介護職場認証制度」を平成三十年十月に創設しました。

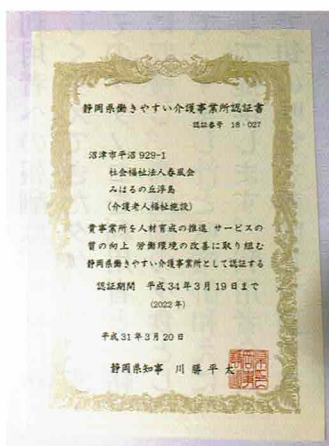
この制度は、介護人材の確保に当たり、介護事業所の主体的な人材確保や育成の取り組みを促し、切磋琢磨することを目的とし、取り組みへのインセンティブを働かせるため、認証制度を創設し事業所の取り組みを「見える化」したものです。

その内容は、全部で三十二項目にわたりそれぞれの取り組みがどのようなになされ実践されているのかを認証される制度となっています。人材育成推進の項目の一つに、資格取得を支援する制度があり、春風会では、資格取得等支援制度規程があり、職務の一部免除や支援金を支給しています。

サービスの質向上の一つに、「家族や地域との交流（連携）の取り組み」という項目があります。みはるの丘浮島では、敬老会時や納

涼祭・防災訓練等で家族や地域と連携し取り組んでいます。

労働環境改善の項目の一つに、育児・介護を両立できる取り組みの実施として、春風会では、ウエルカムベイビー対応マニュアルとして、産前産後の業務のあり方について配慮し最善の対応策を検討するようになっています。



今回、みはるの丘浮島では、特別養護老人ホーム、短期入所、訪問介護、通所介護、認知型通所介護の5事業所、法人全体では左記の二十二事業所が認証を受けました。今後もサービスの質の向上を図ると同時に職場環境の改善や処遇改善に積極的に取り組んでいきたいと考えております。

### 法人内6施設の認証事業所

特養5施設、地域密着型特養2施設、短期入所5施設、通所介護5事業所、認知型通所介護2事業所、訪問介護3事業所

## 社会福祉法人春風会の経営成績等の分析結果

法人の経営成績等		単位	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	
収支差額比率	経常増減差額 ÷ サービス活動収益計	%	4.2	5.5	6.1	
サービス活動収益計	サービス活動収益 - 補助金事業収益	千円	3,856,825	4,121,548	4,232,232	
法人全体経営成績	人件費	金額	千円	2,735,830	2,925,452	2,947,577
		比率	%	70.9	71.0	69.6
	事業費	金額	千円	531,923	564,626	527,042
		比率	%	13.8	13.7	12.5
	事務費	金額	千円	260,970	282,873	304,576
		比率	%	6.8	6.9	7.2
	減価償却費-国庫補助金取崩額	金額	千円	155,216	158,566	156,141
		比率	%	4.0	3.8	3.7
合計	金額	千円	3,528,723	3,929,819	3,935,336	
	比率	%	91.5	95.3	93.0	
経常増減差額	金額	千円	161,530	225,299	259,503	





高尾園では、様々な施設内外作業を行い、そこから就労支援、地域移行支援へと結んでいます。その内の一つが、施設外作業で行っている環境整備です。主に竹生や花壇、畑の整備です。力のいる仕事ですが、男性利用者が主体となって作業を行っています。

今回紹介するのは、敷地外での環境整備活動です。毎年、高尾園では、居宅訓練のお世話になっている皆さんの持ち物である竹林の整備を行っています。竹林内にある、枯れたり折れたりした竹や、節が黒く艶がなくなってしまう竹

を選別し、伐採、片づけます。竹林の中に良い土壌を作る為、竹林内に日光が入りやすい環境を整えます。

今年、四十代から六十代の男性利用者が参加しました。今年初めて参加する利用者には、経験のある利用者が教える姿もあり、皆で協力して作業を行いました。最初は、鍬（くわ）を持つ事に不安を抱いていた方も、最後には「教えてもらって楽しかった。」と笑顔で参加されていました。竹林整備での大家さんから利用者への報酬は、竹林に新しく生えてきたタケノコです。そのタケノコを利用者と一緒に収穫し、高尾園の夕食として、すまし汁と味噌酢和えにして提供します。利用者全員で旬の味覚を美味しく頂きました。



## 施設外での活動や就労



みなさんは施設外就労をご存知でしょうか？普段は施設の中で仕事をしている利用者と職員が外に出て、委託された業務を行う制度で、利用者には工賃向上と一般の職場を体験できる良い機会です。また、就労には職員も同行しているので、対応の不安が少なく障害者雇用を経験できるメリットがあります。もくせい苑では平成28年から、日本サイクルスポーツセンターと契約を結び、主にレストランでの下膳や皿洗いの仕事を行っています。

サイクルスポーツセンターは、おもしろ自転車やサイクルコースターをはじめとしたアトラクションの他、5キロサーキットなどの本格的なコースもあり、スポーツ団体を中心に合宿施設としても利用されるため、ゴールデンウィークやお盆期間中は非常に多くの利用客が訪れます。

レストランにも多くのお客さんが見え、お昼時ともなると席が全て埋まり、食器の返却口もあつという間に食器でいっぱいになります。利用者の仕事は、そこから箸やゴミを分別したり、運んだり、流してお皿を洗ったり、洗ったお皿を干したり、片づけから支度まで、様々なことを行っています。普段の作業に比べて忙しい時間も多いたりますが、最後までしっかりと作業を行っています。2020年にはオリピック・パラリンピックの自転車競技の会場となり、ますます賑わいを見せるサイクルスポーツセンターで、元気に活躍しています。

もくせい苑では施設外就労先を募集しています。掃除、草取り、皿洗い、軽作業など、様々なことに挑戦したいと思えます。みなさんと一緒にお仕事ができる時を楽しみにしています。







# 身近な場所で介護予防!

## あしたか地域包括支援センター



### 愛鷹ちよつくら体操

沼津市愛鷹地区は、全国的な傾向と同様に高齢者独居世帯が徐々に増加していますが、市内では比較のご家族と同居の高齢者が多いエリアとなります。

それ故に、見守りという点では安心なご家庭が多いのですが、一方で高齢者の家庭内や地域での役割・活動の喪失を起因とした、心身機能の低下に関するご相談が多いという特徴がみられます。具体的には、「外出することがなく、足腰が弱って転びやすくなった。」「人と話す機会がなく、物忘れが進んだ。」等の内容です。

当センターでは、高齢者が運動や他者との交流を日常的に行い、機能低下を予防できる機会を作っていく必要性を感じてきました。

しかし、介護保険の対象とまではいかない「身のまわりの事は自立。近所には徒歩で出掛けるが、遠出は難しい。」という方々が利用できる資源は限られて

ていました。

以上の課題を当センターと愛鷹地区社会福祉協議会とで共有した中で、協働で介護予防の普及啓発に取り組んできました。



具体的な内容は、①愛鷹独自の椅子に座ってできる体操を作ること②体操を専門家ではなく、住民ボランティア（体操サポート）が講師となって広めていくこと③自治会の公会堂等の高齢者が徒歩で通える場所で、介護予防サロンを展開していくことです。体操は、日本親子体操協会の三船美也子先生に考案し

ていただきました。平成28年度に12名、29年度に9名のサポートを養成し、グループを「愛らぶ貯筋の会（お金は使うと減るが、筋肉は使うと増える!）」、体操を「愛鷹ちよつくら体操」と命名しました。

平成29〜30年度中に愛鷹地区内の三ヶ所で介護予防サロンが立ち上がりました。また、各自治会の小地域福祉サロンからも、体操サポートを派遣してほしいという依頼が増えてきました。

### お寺 de 介護予防

さらに、様々なご縁を通じて地区の東西にある二つの寺院に会場のご協力をいただけることになりました。平成31年1月に「光厳寺」、2月に「龍雲寺」で「お寺 de 介護予防」を開催しました。ちよつくら体操に加え、光厳寺では「静かな雰囲気の中で五味住職様を交えた茶話会」、龍雲寺では「村越住職様自らが軽快なトークとともに『白隠あんま』の伝授」等の充実



した内容で、参加者からは大好評でした。引き続き、光厳寺では月一回、龍雲寺では年三回のサロンを実施予定です。

体操サポートの皆さんは、最初の頃は緊張きみでしたが、回を重ねるごとに自信をつけてきています。最近では、プロ顔負けの進行ぶりです。

平成30年度は、延べ約八百名がちよつくら体操を体験しました。今後も、地域の皆様にご協力をいただきながら、介護予防の場を増やしていけるよう活動をしていきたいと思っております。







## なかいず認定こども園 入園式



4月4日花曇りのなか、令和元年度の入園式が行われました。今年度は0・1・2・3歳児合わせて28名の新しい友達を迎え、121名で新学期がスタートしました。職員紹介の後、年長組が「おはながわらった」の歌を披露し「なかよくあそぼうね」と大きな声でメッセージを言いました。クラスの先生に名前を呼ばれると、「はい」と手をあげて返事をする3歳児、高い高いをしてお子さんの顔をみんなに見せてくれる保護者の方など、緊張の中にも温かい雰囲気になっていました。

今年も「みんな元気に仲良く育つ、なかいずっ子」を目標に、職員同士が力を合わせ取り組んでいきたいと思えます。



## ようこそ

## あまぎ認定こども園へ

4月5日、満開のさくらの花がお祝いする中、あまぎ認定こども園の入園式が行われました。

今年はひよこ組（0歳児）2人、あひる組（1歳児）3人、りす組（2歳児）2人、うさぎ組（3歳児）7人、きりん組（4歳児）1人、ぞう組1人の計16人が新しくこども園の仲間になりました。



こども園  
特集

## なかいず認定こども園 鮎の放流



4月16日、年長のたんぽぽ組が鮎の放流を体験しました。

大見川に着くと、狩野川漁協の組合員さんと中伊豆地区の民生委員さんが笑顔で迎えてくれました。

さっそく袖まくりをしてやる気満々の子どもたち。「先生！鮎の子どもは、何て言うか知ってる？」ちぎょ"って言うんだよ。」と、事前に調べたことを嬉しそうに教えてくれる子もいました。

漁協さんの合図で、バケツに入った10センチ程の鮎を一斉に川に放しました。

両手で上手にすくって「大きくなってねー」と声を掛ける子、元気よく飛び跳ねる鮎を相手に、なかなかつかめずにいる子、「もっとやりたい！」と何度もバケツをもらう子、どの子も張り切って取り組んでいました。

放流後、「鮎はどうやって戻ってきますか？」「何を食べていますか？」と疑問に思ったことを聞いてみました。

「鮎は鮭の仲間なので、生まれたところに戻ってきます。」

「鮎は石に付いているきれいな苔を食べます。だから、川に物を捨てないでください。」というお話に大きくうなずいていた子どもたちです。





もくせい苑の名物には、焼き芋やとうもろこしなどの農産物があります。それを支えてくれる畑のボランティアグループを紹介します。

平成29年5月から、小嶋様を中心に毎週月曜日に二、三名のメンバーが交代で、畑のお手伝いに来て下さっています。その後、参加するメンバーも増え、これまで七名の方にご協力いただいています。小嶋様、平井様、土屋様、内田様、藤澤様、牧様、鈴木様のおかげで、



新鮮でおいしい農産物を提供することができ、大変喜ばれています。ご協力ありがとうございます。

小嶋様は平成16年の新潟県中越地震で被災され、葦山町（現伊豆の国市）に越して以来、その体験を講演されたり、高齢者施設の送迎や配食のお手伝いをされたりと、多くのボランティア活動をされてきました。取材の中でも「社会への恩返しをしたい。」と語り、もくせい苑のみならず、様々な活動で活躍されています。



平成三十一年四月十四日（日）午後二時よりあしたかホームでイサビズ棟で「はるかぜ落語会」を開催しました。今回の高座をつとめて下さったのは五代目円楽一門会に所属する沼津市出身の落語家、三遊亭朝橋氏です。

朝橋氏は、二〇〇四年に六代目三遊亭円橋に入門し、〇八年に二ツ目、一七年に真打に昇進されました。〇九年に市内で後援会が発足し、年二回の独演会が開催されており、沼津市の観光大使「燦々ぬまづ大使」も務めており、沼津市の活性化にも力を入れていきます。今回の落語会は沼津ロータリークラブに所属する石川理事長が高座を聴き地域貢献の一環としてお年寄りや地域の皆様に落語を通じて元気なところ、快く引き受けて下さいました。

落語会が始まるとまず朝橋氏



が来場された方にどれだけ落語に馴染みがあるかフリートークやクイズをされ会場を温めて下さったところで「寿限無（じゅげむ）を演じて下さり、なじみ深い噺（はなし）」と早口言葉のお披露目により会場が笑いに包まれました。休憩をはさみ続いて「時そば」を演じて下さり、そばを食べる仕草の名人芸に会場は笑い拍手に包まれました。

今回の落語会は初めての開催でしたが百五十名程の来場者、お年寄りが集まり大盛況に幕を閉じました。石川理事長、朝橋氏も挨拶にて「笑うこと」は認知症・介護予防にも役立ち若返りの効果も期待できる、定例化して開催していきたいと話されました。社会福祉法人は地域において公益的な取り組みを行うことが義務付けられており、今後とも地域に根ざした取り組みを企画していきます地域貢献活動を継続していきたいと思っております。





平成  
30年度

## ◆◆ 苦情・要望等 受付状況報告 ◆◆

新年度になり、各施設において苦情解決第三者委員会が行われました。昨年度一年間に寄せられた要望や苦情等は、法人全体で29件ありました。

### ● 苦情等の受付状況

この数年の傾向としては、特養ホームにおいては介護事故などの重大なインシデントが減少して来ております。苦情・要望の多くは通所介護や訪問介護等の在宅サービスに対するものであり、その内容も職員と利用者・ご家族とのコミュニケーション不足

によるものが大半を占めております。また、居宅介護支援事業所についてもケアマネジャーのサービス調整についてのご意見が多く感じられます。

私たちは常にサービスを利用される皆様が、どのようなお気持ちでサービスをご利用になるのか、私たち事業所にどのようなサービスを求められているのか、利用者や介護者の気持ちをしっかりと汲み取り、共感し、相互の信頼関係を構築することが大切です。

春風会では、職員一人ひとりが目配り・気配りを大切にし、コミュニケーション能力が高められるよう、部署内研修などを通じて職員のスキルアップに今後も努めてまいります。

### 苦情・要望等の内容（一部抜粋）

#### 《高齢者関係事業》28件

- ・デイサービス利用日に迎えが来なかった。
- ・デイサービス利用中に爪剥離してしまい、ケア内容に不満がある。
- ・ショートステイ利用時にお願いした事項がされていない。
- ・ケアマネジャーが希望する日にサービス調整が上手に出来ず不満がある。
- ・送迎車両の運転マナーについての注意。

#### 《認定子ども園事業》1件

- ・連絡事項は子どもだけ伝えるのではなく、親にも伝えるようお便りや掲示、アプリにて発信してほしい。

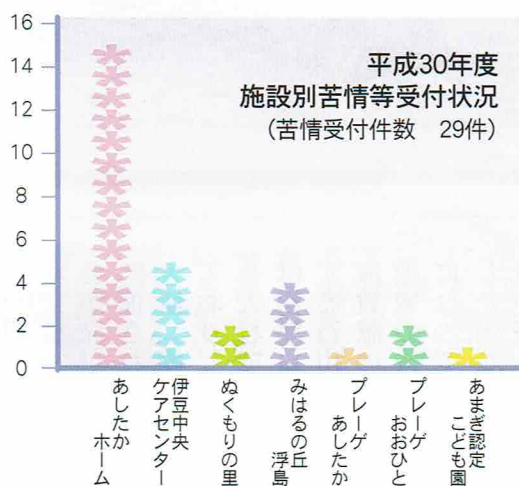
#### 《障がい者関連事業》

苦情・要望の受付なし

#### 《救護施設事業》

苦情・要望の受付なし

※苦情受付状況は、法人ホームページにて公表  
春風会ホームページ <http://www.shunpuukai.com/>



- 春風会法人本部・特別養護老人ホームあしたかホーム  
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1  
TEL(055)967-1166(代) FAX(055)967-3566
- 特別養護老人ホーム伊豆中央ケアセンター  
〒410-2402 伊豆市大野304  
TEL(0558)72-8111(代) FAX(0558)72-7297
- 特別養護老人ホームぬくもりの里  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-29  
TEL(0558)76-6700(代) FAX(0558)76-7511
- 特別養護老人ホームみはらの丘浮島  
〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL(055)969-3355(代) FAX(055)969-3385
- 障害サービス 生活介護 沼津虹の家  
〒410-0302 沼津市東椎路1742-1  
TEL(055)967-2220(代) FAX(055)967-3566
- 障害サービス 生活介護 あおばの家  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-429  
TEL(0558)76-6702(代) FAX(0558)76-6702
- 障害サービス 就労継続支援B型 もくせい苑  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-47  
TEL・FAX(0558)76-6755
- 原高齢者福祉センター  
〒410-0312 沼津市原1200-3  
TEL(055)968-4510(代) FAX(055)968-4511
- ふれあいデイサービス<デイサービス一般型>  
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL(0558)83-3380(代) FAX(0558)83-3380

- 天城放課後児童クラブ  
〒410-3213 伊豆市青羽47  
TEL(0558)87-1080
- 中伊豆放課後児童クラブ  
〒410-2505 伊豆市八幡33-1中伊豆ふれあいプラザ  
TEL(0558)83-2911
- 救護施設 沼津市立高尾園  
〒410-0001 沼津市足高156-1  
TEL(055)921-5722(代) FAX(055)921-5723
- ケアハウスはるかぜ  
〒410-0318 沼津市平沼929-1  
TEL(055)969-3382(代) FAX(055)969-3383
- 小規模多機能施設 北狩野ケアセンター  
〒410-2401 伊豆市牧之郷116番地  
TEL(0558)72-8811 FAX(0558)72-8860
- 地域密着型特別養護老人ホーム プレーグあしたか  
小規模多機能型居宅介護支援事業所  
〒410-0302 沼津市東椎路1639-1  
TEL(055)967-3400(代) FAX(055)967-3401
- 地域密着型介護老人福祉施設 プレーグおおひと  
〒410-2318 伊豆の国市白山堂408-9  
TEL(0558)76-7300 FAX(0558)76-7299
- 障害サービス ケアホーム などの家  
〒410-2315 伊豆の国市田京1258-437  
TEL(0558)77-1017
- 地域活動支援センター サポートセンター絆  
〒410-2315 伊豆の国市田京1259-293  
TEL(0558)77-1221

- 複合施設 ふらっと月ヶ瀬  
〒410-3215 伊豆市月ヶ瀬408-1
- あまぎ認定こども園  
TEL(0558)85-2030 FAX(0558)75-8201
- あまぎデイサービス<デイサービス一般型>  
TEL(0558)85-0816 FAX(0558)75-8201
- 就労継続支援B型 事業所プラム<障害サービス>  
TEL(0558)85-1919 FAX(0558)75-8201
- プラムカフェ  
TEL(0558)85-2551 FAX(0558)75-8201
- 片浜・今沢地域包括支援センター  
〒410-0874 沼津市松長12-3  
TEL(055)969-7050 FAX(055)968-2177
- 伊豆市修善寺地区地域包括支援センター  
〒410-2413 伊豆市小立野66-1 修善寺生きがいプラザ  
TEL(0558)99-9301 FAX(0558)99-9302
- なかいず認定こども園  
〒410-2505 伊豆市八幡282-1  
TEL(0558)75-2810 FAX(0558)75-2811
- はら居宅介護支援事業所  
〒410-0311 沼津市原町中2-7-11  
TEL(055)941-8333 FAX(055)941-8334